

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5年 3月 13日

事業所名 放課後等デイサービスi-stepジュニアグッドjob

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6	0	0	学習ルームもあり宿題に集中できる。 部屋ごとに活動内容を決められる学習スペースが確保されている。 活動ごとに分けることができる。	
	2	職員の配置数は適切である	5	1	0	終了後の送りが多く、待機職員不足な時もあるが、他事業所と比べると恵まれている。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	2	4	0	浴室(着替え)入口の段差がある。トイレが狭い。 部屋で入り口に段差、沓摺、敷居がある。事業所としてはトイレが狭い。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	2	4	0	毎日ミーティング内で話し合い、共有することができている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5	1	0		
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4	1	1		
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	4	2		
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	2	4	0	強度行動障害の研修は受講している職員がいる。 これからも色々な研修に参加していきたい。 障がいの特性や支援スキルを学ぶ機会や職員として身につけるべき接遇マナーなど実施してほしい。研修の案内、アナウンスはある。	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	5	1	0		
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	1	5	0		
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	6	0	0	職員全員が揃って行っている。職員全員で案を出し合っている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6	0	0	平日、土曜日どちらの活動についても、魅力的な活動を取り入れている。 活動の種類に偏りがないう、季節行事等を取り入れている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	4	2	0	休日、長期休暇は、平日ではできない活動を取り入れている。 放課後にできない活動を提供している。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	5	1	0	個別活動は、それぞれの特性を生かせるようもっと充実するとよいと思う。 同じ活動内容でも、その子の個性に合わせて取り組んでいる。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5	1	0	朝のミーティングは昨日のことも含め申し送りができており、当日の活動についても話し合いで確認している。午前中のミーティングで必ず行っている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	2	4	0	次の日の朝に行っている。送迎の戻る時間はバラバラで、全員が共有することは難しい。 送迎後は退勤時間のため、翌日に行っている。	

	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5	1	0	日替わりで職員が担当(ミーティングの内容)。職員全員で毎日の記録をつけている。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6	0	0		
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせせて支援を行っている	2	4	0		
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	0	0	児童生徒により多く関われる職員がサポートとして参加する事はある。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	4	2	0	学校又は担任によって情報共有はまちまち。その都度、親切に教えてくれる先生もいる。学校、先生によって、情報共有ができたりできなかったりもある。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	0	4	2	医療的なケアが必要な利用者が現段階ではない。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	0	5	1		※現在該当児童なし
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	3	3	0		
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	1	3	2		今後連携していきたい
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0	1	5		今後機会を設けるよう検討中
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	0	2	4		今後機会を設けるよう検討中
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6	0	0	口頭だけでなく、LINEやメール等で活動の様子(写真、動画)をお伝えしている。連絡帳の活用は大事にしている。送迎時直接口頭で伝えられる利用時には必ず、その日の状況をお伝えしている(帰宅時に)。	
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	1	1	4		今後機会を設けるよう検討中	
保護者への説明	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5	1	0	口頭、書面を通じ丁寧な説明は行われている。活動の様子の写真や動画も提供。契約時に行っている。支援、活動内容は、帰宅時等お伝えしている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	0	0	その場で応じられない内容については、上司又は全職員に相談し、適切な助言として伝えている。できるかぎり相談には応じている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	2	4		今後機会を設けるよう検討中
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6	0	0	保護者との面談を実施している。職員等で共有し、すぐに対応している。	

責任等	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6	0	0	らくらく連絡網にて情報発信している。活動予定カレンダーを早めに配布。活動内容に安心していただけるよう心がける。前の月に、活動予定カレンダーを渡している。活動の様子動画、写真でお知らせしている。	
	35	個人情報に十分注意している	5	1	0		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしている	6	0	0		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	2	4		今後機会を設けるよう検討中
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	4	2	0		
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5	1	0	地震と水害による訓練をしている。防災リュックの中身の使い方も確認した定期的ではないが訓練は行っている。避難袋の確認を行っている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	3	3	0	月1回の虐待防止アンケートを行っている毎月「虐待防止アンケート」を提出している。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	3	2	1	契約書を確認した事がないので改めて確認をする。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	1	4	1	契約時に確認を取り、職員内にも共有している。	
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6	0	0			